

熊本県農業研究センター設立30周年記念誌の発刊にあたって

熊本県農業研究センター
所長 川口 卓也

熊本県農業研究センターは、本県の農業技術開発の拠点として、県下に分散していた8つの農業研究機関を統合し、平成元年に発足いたしました。

設立から30年を経た現在、当時から懸念されていた農村地域の過疎化や担い手の高齢化に加えて、人口減少社会の到来による国内消費の低迷、TPPやEUとのEPAなどの国際的な貿易環境の変化、地球温暖化などの気候変動、消費・流通ニーズの多様化、熊本地震からの復旧復興など、本県農業が対応すべき課題は多様化、深刻化しております。

農業研究センターは、県の農業計画及び試験研究推進構想に基づき、これらの課題に農業研究の面からアプローチし、本県農業の持続的な発展の基礎となる品種の育成・選定や生産技術の開発にひた向きに取り組んで参りました。

品種開発では、米の「森のくまさん」、いぐさ「ひのみどり」、かんきつ「肥の豊」、復元した地鶏「天草大王」などは、長い間消費者の方々にご愛顧頂いており、最近では、米の「くまさんの輝き」、イチゴの「ゆうべに」、あか牛・黒牛の種雄牛など、熊本県を代表するブランドが数多く生み出されています。

また、技術開発では、省力的施肥技術や土壌管理技術、トマト黄化葉巻病をはじめとした防除対策、トルコギキョウの育苗技術確立といった栽培技術などを開発してきました。さらに、ICT、IoT、AIといった技術を活用することで農業の収益性向上や省力・軽労働化、低コスト化を図るスマート農業に関する試験研究にも今後力を入れていくこととしております。

このように、現場での課題に素早く対応し、解決することで本県農業者の厚い信頼を得るとともに、農家経営の安定化に大きく寄与してきたと思っておりますが、本県農業を発展させ、次世代へ引き継いでいくための「稼げる農業」の実現に向けて、農業の生産技術の礎を築く当研究センターの使命は、今後益々大きくなっていくものと考えております。

ここに設立30年の節目を迎えるにあたり、職員一同、一層職務に励み、県民の皆様の期待に応えていくことを誓うところであります。生産者や関係機関の皆様方には、今後とも変わらないご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本資料は熊本県農業研究センター発足30周年の節目にあたり、その記録としてとりまとめたものであり、作成にあたりご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。